

新潟県

公民館月報

昭和57年5月号

発行所 新潟県公民館連合会

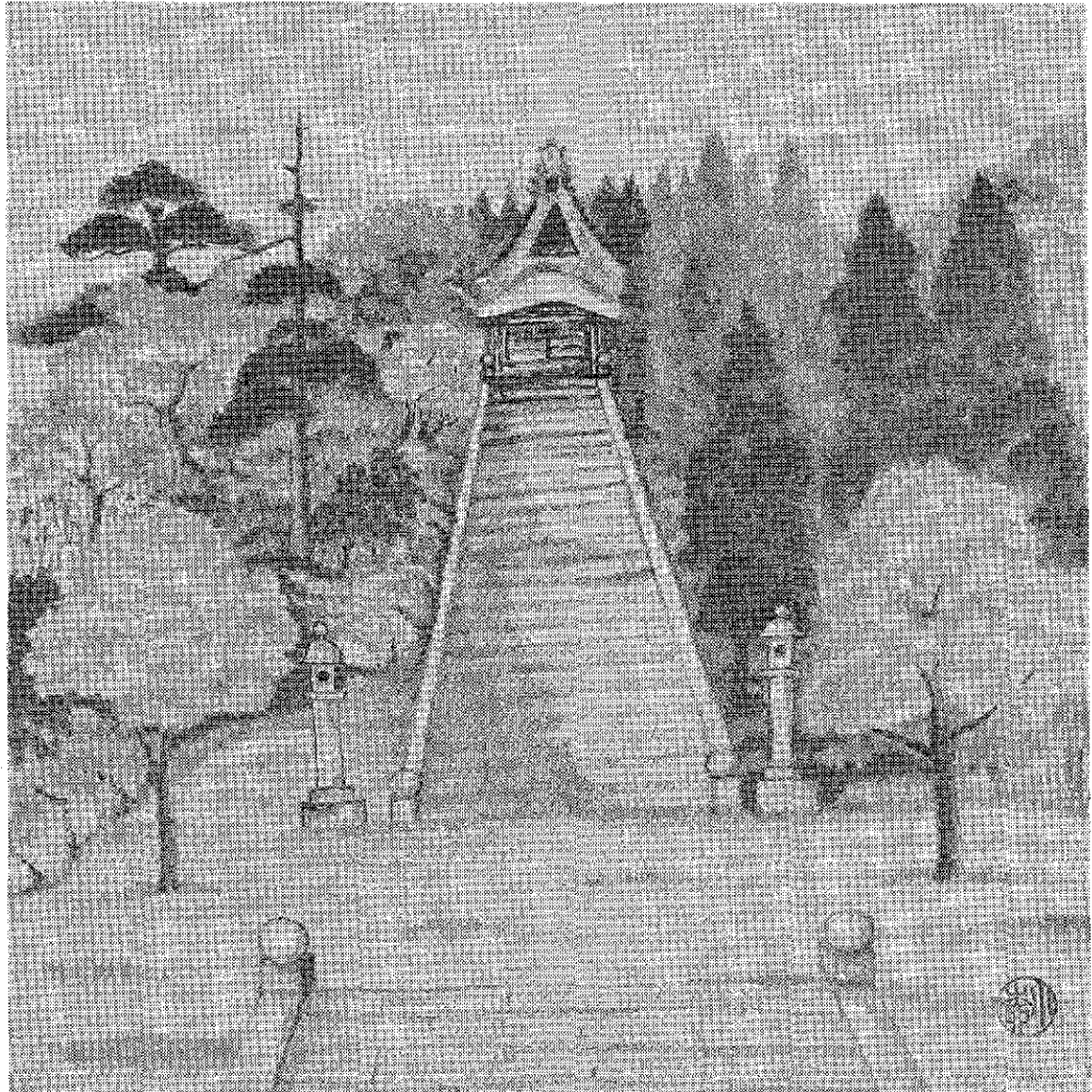
【新潟市川崎町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4049】

発行人 会長 石井 耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部100円 年共1,200円】



聖籠山観音寺

聖籠山観音寺は諏訪山に在り、古くから聖籠町の観音縁として広く知られている名刹である。

真言宗知山派に属し、本尊は十一面観世音菩薩立像(町指定文化財)である。縁起によると、往古百合若が愛鷹「緑丸」菩提のために、天平九年(七三七)泰澄大徳が本堂と二五尊(町指定文化財)を彫刻して一字を建立されたと伝えられている。大同元年(八〇五)、異僧が来て本尊・二王尊を供養し、礼拝する。その後、さらに堂舎を建てて山籠とした。時の人々は聖者の籠った山であるということで「せいろう山」と、いったという。

江戸時代には、新発田藩主溝口家の加護をうけ、寺領をうけるなど、同寺には藩主代々の寄進された多くの宝物があり、町指定文化財が何点もある。

境内は緑にうまれた山にあり、現在は越後二十九番札所・蒲原二十七番札所として、各地より参詣者があり、本尊が安置されている観音堂は十年毎にご開帳される。

絵・聖籠町辻野老人クラブ

会長 小柳 正栄

文・聖籠町公民館社教主事

手島 勇平

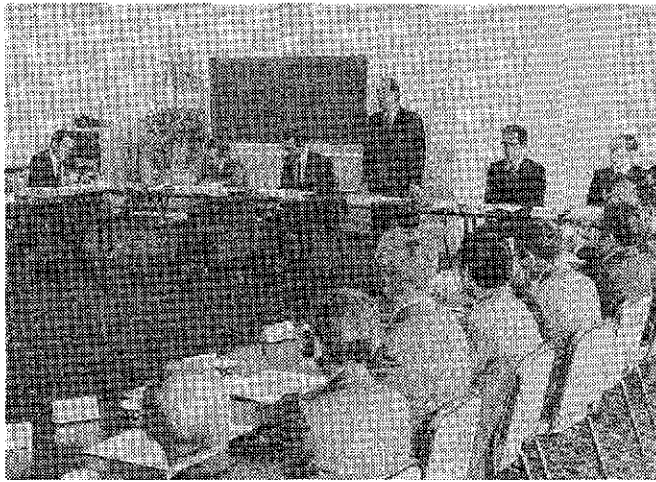
第一回評議員会

石井会長を再任

きびしい状況下で予算を審議

さる四月二十六日、新潟市の「厚生年金会館」で本年度第一回評議員会が開かれ、別記報告をはじめ昭和五十七年度事業計画、予算などの審議事項が審議され承認された。

任期満了にともなう役員の変更については、現会長石井耕一氏(豊栄市長)を再び満場一致で推挙した。なお評議員会終了後、会費持ちよりによる懇親会でそれぞれ交流をはかった。



(厚生年金会館で開かれた第一回評議員会)

報告事項については特

- (1) 合同会館(仮称)建設にともなう本会事務局の入居については、県社会教育課をはじめ公民館振興市町村長連盟、市町村そして自治会館管理組合等の理解、協力を得て実現したい。
- (2) その他「地方交付税の算定基準の引き上げ」については、県市長会、北信越市長会等の支援を得て全州市長会まで持ってゆき実現をはかりたい。
- (3) 昭和五十七年度予算は、かねてから懸案となっていた「事業分拒金の収金」を特別会計を設けて清算したこともあるが、きびしい財政事情を反映して前年度比三十二万二千円減の千二百五十九万九千円となった。

- (2) 第三十三回県公民館大会は、開催地地元でも不承公連から提案の基幹回案で推進してゆく(事業計画は別紙のとおり)が、(事業計画)が削除され「主事会則」が廃止された。
- (3) 会則改正第十五条(イ)が削除され、役員改選は、石井耕一現会長が引き続き会長に就任し、副会長以下の役員については、各地区公連からの推せんを得て決定する。

議事

1. 報告事項

- (1) 第32回新潟県公民館大会結果について
- (2) 第30回公民館振興大会結果について
- (3) 昭和57年度公民館関係予算増額運動結果について
- (4) 関フロ公債代表者会議結果について
- (5) 合同会館(仮称)建設にともなう本会事務局の入居に関する方針について
- (6) 編集委員会の結果について
- (7) その他

2. 審議事項

- (1) 昭和五十六年度県公連歳入歳出決算見込について
歳入決算見込二千二百三十一万八千七百円、歳出決算見込二千二百八十四万六千九百三十三円、繰り越し見込額二千二百五十九万九千九百四十四円を承認。
- (2) 昭和五十七年度事業計画ならびに歳入歳出予算案について
(事業計画は別紙のとおり)が、(事業計画)が削除され「主事会則」が廃止された。
- (3) 第三十三回新潟県公民館大会基本計画について
会期 八月二十七日(金)
会場 西蒲原郡巻町文化会館
主題 「公民館をめぐる関係行財政施策改善の具体策について」等別紙大会要項のとおり承認。
- (4) 会則改正について
- (5) 役員改選について

なお昭和五十七年度県公連市町村員拒金は前年度と同じ三百二十五万円の据え置きとなったが、賦課基準は次のとおりである。

平均割 30割(九十七万五千円)
人口割 70割(二百二十七万五千円)
平均割は20市総額五十五万七千四百四十円、15郡2町村総額四十一万七千八百六十円である。

(新潟市中央公民館事務長・徳岡助大記)

新展開をはかる二つの会議

石井耕一メモ ②

去る三月二十日、新潟県新生活運動協会の理事会で、財団法人新生活運動協会の改組について審議された。

新生活運動は、昭和三十一年、鳩山首相の提唱で始まり、一もはや戦後ではないが流行語になった年である。以来二十余年、公民館活動とも関連をもたながら、生活や娯楽娯楽改善、郷土奉仕活動、花びら運動、資財活用や省エネルギーなど、時勢に即応した活動を展開してきた。

協会を名称を一財団法人としたの日本を創る協会」と改め、運動のマンネリ化からの脱出をはかることを目的とするものである。公民館もそれに注目し新展開に協力していきたい。

四月十日、富山市で開会された全国民俗芸能保存振興市町村連盟の役員会(総会)出席した。私は新潟県では一人の役員で、監事である。

毎年年末公民館施設整備補助金増額運動に行く人は、公連の手続対策本部の前、全市民連の対策本部のあることを知っている。全市民連の会長は、公民館振興市町村長連盟の会長である服部一純(焼津市長)である。

全市民連は、日本青年館と共催の全国民俗芸能大会、文化庁主催の国(県)場で開催の

日本民謡まつりの協賛、全国五ツロック(新潟県は関東甲信越)の民俗芸能大会の後援、歴史民俗資料館の設備促進などの事業を実施している。

新潟県での加担は五市、五町、四村である。加担数は全国的には多い方であるが、関心が低いので、会費の未納がある。隣の県での会費たというのに、出席は一人だけである。残念なのは、連盟が運動で得た国庫補助金の交付を受けながら、加担ができては知らぬ顔をしている市町村のあることである。

行革の趣旨は単なる財政対策でなく、今までの行政の物理的建設や、金や物を与える社会福祉から、心豊かな人間形成と、香りの高い文化の確立への方向転換である。連盟の活動は、加担数を増加して新展開をはかりたい。

文化庁の課長、福岡の大学教授や民俗学関係団体代表者の列席する会議で、私も大いに発言し、新展開をはかることになった。

地方の時代である。民俗の歴史をたずね、新しい生活文化の創造と振興をはかることは、公民館にとっても重要なことである。

(筆者は本会会長 豊栄市長)

昭和57年度 新潟県公民館連合会 事業計画

1. 重点目標

- (1) 市町村公民館の振興は、第一に施設整備の拡充強化にあることを認識し、この機運をいっそう盛り上げるため、公民館大会等の機会を活用して相互研修に努める。
- (2) 新潟県公民館振興市町村連盟との提携をいっそう強め公民館振興に関する国および地方公共団体の行政施策の強化促進に資する。
- (3) 公民館をめぐる諸制度改善への提言を活発にし、社会教育法一部改正への世論を高める。
- (4) 市町村公民館の実際活動の充実と向上に資するため新潟県公民館月報の紙面刷新をはかるとともに購読者の増加に努める。
- (5) 新潟県公民館連合会の健全なる財政運営を維持していくため、新潟県市長会ならびに新潟県町村会および新潟県当局の理解と本格的援助を要望していく。

2. 内容別事業計画

① 連絡協議

- | | |
|--------------------------|----|
| (1) 全国公民館連合会総会 | 1回 |
| (2) 都道府県公連事務局長会議 | 1回 |
| (3) 関東甲信越静公民館連絡協議会総会 | 1回 |
| (4) 関東甲信越静公民館連絡協議会事務局長会議 | 2回 |
| (1) 県公連評議会 | 2回 |
| (2) 県公連理事会 | 4回 |
| (3) 県公連監事会 | 1回 |
| (4) 県公連主事会幹事会 | 1回 |
| (5) 県公連編集委員会 | 2回 |

3. 大会・研修会・講習会

- (1) 第33回新潟県公民館大会 (8月27日巻町公民館)
- (2) 上・中・下越公連主催の大会・研修会・講習会の共催
- (3) 各都市公連大会・研修会・講習会の共催
- (4) 県公民館長研修会の協賛
- (5) 第23回関東甲信越静公民館研究集会参加 (9月3・4日東京都)
- (6) 第5回全国公民館研究集会参加 (10月13・14日長野市)
- (7) 第31回全国公民館振興大会参加 (12月東京都)
- (8) 昭和58年度公民館施設国庫補助増額運動参加 (12月東京都)

4. 資料発行・あっせん

- (1) 「新潟県公民館月報」の発行
- (2) 「公民館関係法令解説」の発行
- (3) 「月刊公民館」の発行事務に協力
- (4) 社会教育関係優良図書紹介あっせん

5. 社会教育関連機関、団体との提携事業、運動

- (1) 県社会教育協会の事業に協力
- (2) 県社会教育団体の事業に協力
- (3) 県広報協会の事業に協力
- (4) 県図書館協会の事業に協力



柏崎市老人クラブ連合会では、活動方針に頼られる老人を掲げているが、高令化の進む社会では、当然なことと考えられ、それを母ける単位老人クラブでも重要な指針としている。社会福祉問題のいろいろあるなかで、とりわけ老人福祉、老人医療の問題がクローズアップされているが、その核心は何か、検討すべきであると思う。



高令化社会に思うこと

牧 正 隆

行政は高令者対象の事業

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

「自助努力」が不十分のように思われる

「自分の健康は自分で守る」「自分の健康は自分で守る」「酒気からならぬ」「医者にかからない」「薬の世話にならない」等は、老人がクラブ活動をおして得た貴重な体験と教訓の結果とを結論したと思われる。

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

「自助努力」が不十分のように思われる

- (5) 奉仕銀行事業に協力
- (6) 行政監察相談事業に協力
- (7) 安全会議事業に協力
- (8) 明るく正しい選挙推進運動に協力
- (9) 貯蓄推進運動に協力
- (10) 新生活運動に協力
- (11) 県民運動に協力
- (12) 交通安全運動に協力
- (13) 緑北運動に協力
- (14) 献血運動に協力
- (15) 環境衛生推進運動に協力
- (16) 社会を明るくする運動に協力
- (17) 青少年育成運動 (県民会議) に協力
- (18) 国民体力づくり運動に協力
- (19) 子供を水から守る運動に協力
- (20) 親切運動に協力
- (21) 人権運動に協力
- (22) 各種週間運動に協力

昭和五十五年十月、新潟市に

の課題と展望(1) 第4回全公研集会分科会の記録から

・ 行政は社会教育課が担当し、全市的な視野で役割をしている。

・ 中央公民館の主催事業は予算がついている。地区館は会費で、まかなっているので趣味的なものに片寄る。予算をもらわないと、社会教育事業は出来ない。又非常勤の館長1人では、

・ 行政と公民館は異なった考えをもつべきだと考える。中央公民館と地区館は並列になっている。

・ 小学校区に一つずつ地区公民館はある。社会教育課と公民館は異なり、地区公民館の出来ない事業を、中央公民館でやり中央公民館は地区公民館の連絡調整をする。

司会 予算配分は、社会教育か、公民館か

・ 予算配分は、中央公民館も地区公民館も並列で、社会教育課が配分している。

・ 中央公民館6館、地区公民館10館あるが、教育委員会が統括している。予算は独立、独自の予算をもって、住民要求に答えるべきである。

・ 地域住民の公民館と考えるならば、コミュニティセンターをつくり、住民の学習意欲に応えるため、学級講座、自主学習グループの育成、図書を活用、資料の提供等の事業を進めるべきだが、館に禁止事項が多くあるので困る場合もある。

・ 中央公民館と地区公民館は役割によって変わってくる。それは中央公民館から出発した場合と地区公民館から出発した場合で性格が変わってくる。ただ必要なことは、公民館の連絡調整である。公民館も自治体の一つと考えるならば、権限(組織の中)はどうなるのか、間接的折衝ということでは弱いのではないか。

・ 43万の人口で、6万につき、地区館1館で、そこでは中央館の役割もするし、連絡調整も、予算折衝もする。

助言者 行政の立場からすれば、地位、予算を取る。

中央、地区館との関係では

① 設置基準は小学校区の一つは最低基準

② 中央公民館は7条の連絡調整にあたる

③ 中央公民館も地区公民館も俗称であって、もともと公民館であり、機能によって生まれた。

④ 公民館というのは、地区公民館をさし、基本的には並列であるべきだ。

⑤ 全市的な事業は共同企画。公民館が住民のどの部分までの学習を、どこまで対応できるかを考える。これは、地区の生活、歴史によっても変わってくる。

⑥ 中央、地区公民館で生涯教育の中心機関は無理な話であり、両方共に条件整備をしたい。

(2) 類似施設と公民館のかかわり

・ 自治公民館からスタートして、地区公民館が出来活発にやってきたが、文部省のいうものをやらねばならない。果して何%の主体事業をやり、あと住民のものにするか、カルチャーとのかかわりから、公民館の位置づけは。

司会 公民館に集まる人は決まっている。これは田舎だけでなく、町でもそうだ、見直しの時期と思う。これからの公民館は町内会との結びつきが大切ではないか。

3. 助言者まとめ

1. 公民館は教育機関である。課を超えて直接予算折衝をするが、計画性がない。評価がない。この事業がどう発展してどうなるのか、説得性がない。したがって公民館計画、事業計画、運営計画は復年計画で立てる必要がある。

2. 公民館は地域に根ざした自治活動を、お手伝いをするところである。

住民の連帯性(老、壮、青の一連)コミュニティの育成 ① 事業の一部持ち込み、② 自治公民館にモデル、③ 運営・研修のお手伝い、④ 自治的組織に(学習参加しない)学習の場を提供する、⑤ 相互のアピール活動

3. 職員問題、広義には教育を可ることだから、一定の基準を持って研修をせねばならない。理事者に要求せねばならない。

われわれの公民館を みんなでもっともに

私たちの福崎中央公民館のみなさんの「この施設は役所の現在の施設が四十七年四月に竣工しては十周年。施設なのだ。われわれの公民館なのだ。」という意識を高める

利用(提供する)ことのできる部
屋が僅か八室しかないこの公民館を、毎年平均二、三千人もの市民の方がたにご利用いただいたことと、これは本音が有難いこと、この十年間のこの公民館の番頭役をしてきた私は、ご利用いただいた市民のひびひびとにあらためてお礼を申し上げたい気持ちで一杯なのである。

公民館番頭日記 (13)

あれから十年、周辺に植えた五十本の黒松の寄付をはじめ、利用団体代表者による園路のメンテナンスの生垣の植込み作業、中庭の造設、前庭の景水・燈方泉、電灯掲示

私たちが考えたことは、市民の前、新しい施設の開設に当たって
板、ピアノ、オルガン、展示用パネル掲げ機、時計置き、表に多くの方がたの厚意、ご寄付、ご奉仕をいただいた。開館十周年、ロビーから流れてくる利用者たちの明るく笑い声を聞きながら、公民館のあり方をあらためて考えている。昨今である。
(福崎中央公民館 参事兼事務局長篠岡助志)

都市における公民館の管理経営

第4回全国公民館研究集会在昨年10月23・24日京都府で開かれ、記録集がまとまった。

この大会では、管理経営部会4分科会、事業活動部会10分科会あわせて14分科会が設定され管理・経営・事業活動の具体策について熱心に討議された。ここに内容の一部を要約して紹介していきたい。

- | | | | |
|--------|------------------|----|----|
| 司会者 | 福島県公連会長 | 武田 | 守 |
| 助言者 | 立教大学教授 | 岡木 | 包治 |
| 運営委員 | 全公連副会長 | 横山 | 正人 |
| 基調発表1. | 網走市立中央公民館長 | 尾形 | 義光 |
| | 2. 津市中央公民館長 | 倉本 | 欣宥 |
| | 3. 那覇市教育委員会社会教育課 | 池原 | 弘 |

1. 基調発表

(発表1)

1. 網走市立中央公民館

991㎡の公民館であるが、児童文化センターが主で公民館が併設されているようである。月曜日と祝祭日が休日、社会教育課と一緒にすすめている。人口は4万4千人で毎年増減はない。1つのグループの規模は小さく、1日平均7.3室使用している。

(1) 学習活動

視聴覚ライブラリーの活用を重視

(2) 指導者の確保

道職員の異動が多いが、その中ですばらしい人を指導者に

(3) 移動公民館で施設不足をカバー

4つの農協と力を合わせながら広域に

(発表2)

1. 津市の公民館活動

社会の推移と時代の要請に応えるため、各層にわたって幅広い生涯教育を基調として社会活動を多様な形で実施している。また、子ども達も持っている創造性を発揮させる。少年少女発明教室を行なっている。

2. 運営上の課題

(1) 26万8千人の利用があったが、中味にむらがある。市内と市外、特に効外は利用状況が低い。

(2) 地域の特色を生かした運営

(3) 1年受講したものは、後に組織づくりをさせて、自主運営させる。

(4) 9公民館で141の講座の過密

(発表3)

1. 那覇市の公民館の課題と展望

(1) 各自治会に公民館類似施設が、公民館の役割をしている。

(2) 自治公民館が、本来の公民館ではないだろうか。

(3) 地域住民に根ざしたものと、今考えている。小学校区単位ぐらいにしたい、これが行政の役割であろう。

(4) 公民館学習活動に対して、年間30時間以上の場合、13万円補助と、建設費用の10%以内、500万円の建設補助をした。

2. 討議内容

1. 公民館の管理・運営について

(1) 公民館中央・地区・分館の関係

中央公民館を持たず、21地区館(小学校区)が、自主的で市より補助金300万円程出る。しかし、中央公民館を持つべきか、中央に作った場合、中央にとられるのではないか、地区公民館が、社会教育の目的にあっているように思う。

中央1、地区館8、分館16、専門職34名で、中央館が連絡調整の役を果たす。



公連審の声

めまぐるしい変容を見せる社会情勢の下で地域住民の多様性、高度、個別化の傾向にある学習要求に対応しつつ、時代の先取りを模索する公民館活動はやもすれば急進的に押し進められて探検・探険といった所であらうか。

- 一、当市は、人口十二万六千、世帯三万六千、本年度公民館費一億三千七百万円、運営委員十七、職員十五、協力員十
- 二、推進委員七十(計百六十)
- 三、地区館一、分館十四(内新築十三)の内定期的研修センター
- 四、五十七年度
- 五、建築予定分館
- 六、外に趣味の家二、運営委員会開催予定年六回、五十五年度優良公民館として文部大臣賞受賞、こうした受賞を契機として施設と備の充実と地域の自主的運営(コミュニティセンター方式の芽生え)が見られ歓喜に絶えない。

スタッフの一員でありたい

栗原健正

定年六回、五十五年度優良公民館として文部大臣賞受賞、こうした受賞を契機として施設と備の充実と地域の自主的運営(コミュニティセンター方式の芽生え)が見られ歓喜に絶えない。

公民館活動は関口が広く、複

が深くホッナが影を見せず審議機関の効果を半減している。運営はスタッフの一員と見てすりつ、いって見れば、手回し仕事である。しかし社会教育の中心的施設であり、市民の幸福と発展に直結する公民館の重要性を思い、公民館のあるべき姿は勿

当市は、人口十二万六千、世帯三万六千、本年度公民館費一億三千七百万円、運営委員十七、職員十五、協力員十

推進委員七十(計百六十)

地区館一、分館十四(内新築十三)

の内定期的研修センター

五十七年度

建築予定分館

外に趣味の家二、運営委員会開催予定年六回、五十五年度優良公民館として文部大臣賞受賞、こうした受賞を契機として施設と備の充実と地域の自主的運営(コミュニティセンター方式の芽生え)が見られ歓喜に絶えない。

公民館活動は関口が広く、複

が深くホッナが影を見せず審議機関の効果を半減している。運営はスタッフの一員と見てすりつ、いって見れば、手回し仕事である。しかし社会教育の中心的施設であり、市民の幸福と発展に直結する公民館の重要性を思い、公民館のあるべき姿は勿

せよから聞く

等、年六回、一回精々四一

四時間の研究討議である。

先達諸先生方の後援あるご教示をお願いします。

(上越市立公民館運営審議会委員)

- ★
- ★
- ★

新生公民館繁盛記

(18)

公民館は花ざかり、これまでにすでに二十五館の公民館が登場。好評をいただいています。これからもう少し紹介いたします。

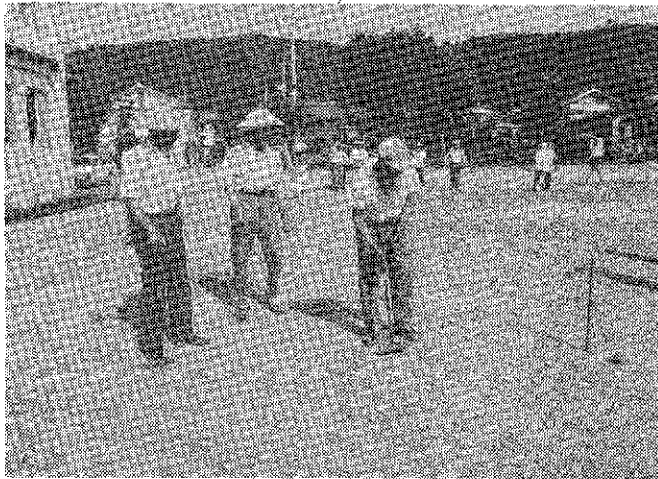
待望の公民館完成

若者が集まる「青年の部屋」

小出町伊米ヶ崎公民館



(積雪二・五mにも耐えられる岩乗な公民館)

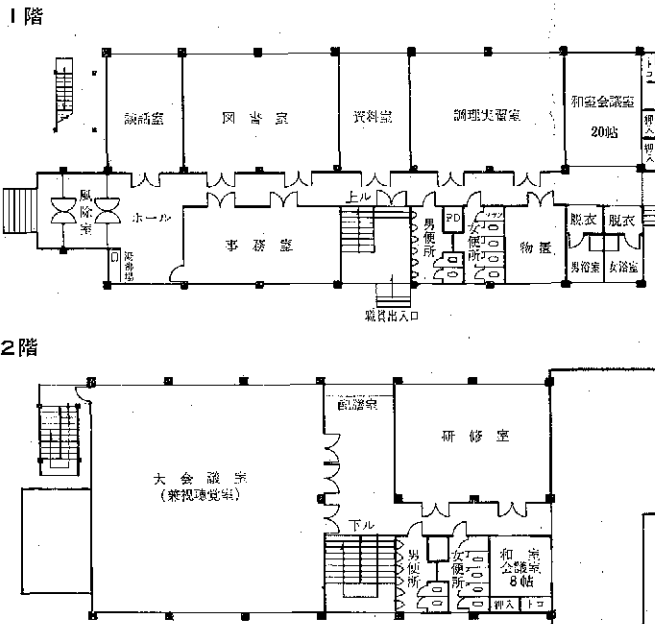


(グラウンドではゲートボールで汗を流しています)

旧伊米ヶ崎村が小出町へ合併し、ともに建物の老朽がひどくなり、昭和二十九年、その時から施設も手狭なために以前から地区旧役員伊米ヶ崎支所兼伊米ヶ崎住民の強い要望もあって、昭和五十二年公民館建設着手翌五十四館を建てました。

年四月に完成、伊米ヶ崎公民館としてオープンしました。旧伊米ヶ崎村には八ツの部落があり現戸数四九四戸、人口は三六〇八、北魚沼郡の最南端にある農村地帯です。旧村の中心であり、中野郡と接する小出町一校となり合併しました。小学校、保育所などの施設があり旧中学校舎に小学校が入り、その跡地に公民館を建てました。

平面図



公民館の概要

○構造 鉄筋コンクリート造り

○設計何重積層量(二・五m)

○面積 一階 四四二・八〇㎡

二階 三六四・五〇㎡

合計 八〇七・三〇㎡

一階には事務室・談話室・図書室・資料室・調理室・和室

・青年の部屋・浴室などがあり、二階には大会議室・研修室・和室などがあります。談話室・図書室に開放されています。

特に町の連合青年団のために昭和

五十五年より青年の部屋を設け専用としており、青年団活動の拠点として大に活用されています。

職員は館長と職員一名を置き夜間、土曜、日曜、休日には管理入を置いて運営しています。年末と年始の六日間休館となりますが、その他の日は年間を通じて利用できるようにしています。

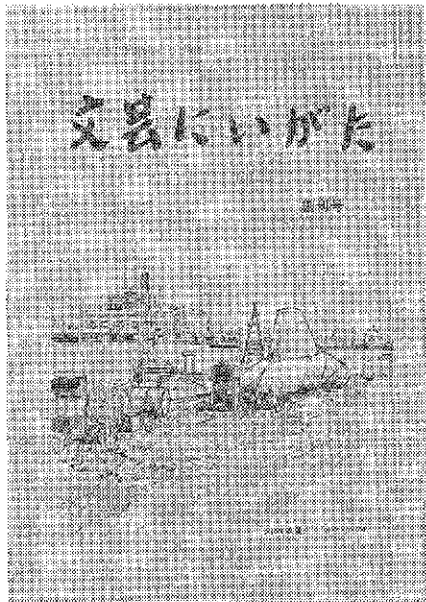
農村地帯、夜間の利用は少ないですが年間約五〇件、二万人近い人たちに利用されております。

(小出町伊米ヶ崎公民館発)

公民館の文芸誌

公民館を軸として、地域に根をおろした文芸活動がさかんにおこなわれています。

編集部に届けられた公民館関係文芸誌のなかから、今月は新潟市中央公民館の「文芸新潟」からの詩を二編を紹介します。



文芸にいがた

作品集を歓迎

公民館で作成した文芸作品集や館報、または広報案内資料などをご恵送ください。毎月上記の欄に紹介してまいりたいと思います。

夏のたより

半田 信和

軒先から

斉藤 健一

唇にふれるだけで気が遠くなる
そんな言葉があるものだ
だが今 私は思い出せない
こんなに空は青いのに
梅雨の晴れ間
まばゆい光の房がこぼれて
静かに移りゆく雲を見つめる
荒れた唇を隠せぬまま
*
遠い島々を旅する友から
短いたよりが届く
「丈高い樹々が濃い影を落とす
日盛り
白い石段をゆっくり のぼる
乾いた葉擦れの音に つと足
を止めると
ひとすじ汗が流れた

こは今 永遠の真昼——
私の知らないところで
友は生きている
私の知らないところで
風は絶えず生まれている
唇にふれるだけで
人の心に熱いリズムを呼び起す
*
そんな言葉があるものだ
梅雨の晴れ間
私は今 ここにいて
まばゆい光に手をのぼす
空の深みへ降りてゆく心を
支える言葉は
透きとおる 夏の風

わたしは急いで
歩いてゆく
窓は厚い綿のカーテンで
仕切られていた
小便をして
顔をあげると
そこから家へつづく道であった
近くの橋を
足の悪い子供が
通りすぎた
靴が大きくて疲れたのだ
乾いた軒先に
ずいぶんびかびかする戸板が
はまっている

公衆電話の
前に立って
はなしをした
声が青空の向うでひるがる
雀はわたしの頭の上を超えて
飛んでいった
樹のように静かである
昼間 口の中で
言葉が遠くへ返ってくる
大きく息を吐き出しながら
わたしは
うつむいた
古い校舎の庭に
石がたくさん落ちていた

プロフィール

吉田町公民館主事
渡辺 綾子氏

このたびの原稿依頼は、「待っていました」といってあります。ところが、である。「イヤダウ」「困ダウ」という返事。二十三年間の道一筋の大ベテランの吉田町の奮闘ぶりからは想像もできない。それが彼女の一つの信念でもある。ひたすら、我が愛する学級生や、団体のために働くのであって、県下や近郷に「ニギニギシクPRされるのは本意とらうわけ。

さすが吉田町公民館の主任というところが、愛称は「アヤちゃん」この呼び方がピッタリする女性である。彼女は二十三年間に社会教育のあらゆる体験をしてきた。スポーツや文化のあらゆる面で、そして吉田町公民館の今日の発展の姿を築いてきた。彼女は、今、二十一の教室、講座を担う。そして、独身でも通りそうなアヤちゃんである。

昨年から問題の山積する婦人会の事務局も担当し、これをどう乗り切るか、どう指導していくかに彼女は、全力を挙げている。県下の愛好者の間で好評の吉田町民会も、彼女が全力投球する大行事である。町民会は雨に降られたことがないというのが彼女の自慢である。彼女の行くところ必ず晴れるという。「晴れ女」である。彼女の年齢は何歳か、二女がピッカピカの一年生である。そして長女は花の高校三年生。ますます利らななりそうだが、この写真の写り具合からすると、独身でも通りそうなアヤちゃんである。

竹を割ったような気性であるがこの、「1」は3にならないうちもある。「という悟りを開いて、ますます口端味のある活劇が期待されていっている。



(吉田町公民館長室 実)

あの頃のこと

社会体育・レクリエーション (3)

中野 滋

(1) 社会体育指導員

公民館活動が地につきはじめた昭和二十年代の中頃、社会生活にうるおいをもたせるために、健全な体育・レクリエーションを奨励普及することが、一つの課題として浮かびあがっていました。農村部で青年団のやぐき踊りを主とした運動会が盛んであった頃です。県教育庁内に、社会教育課が充てずるとの同時は、社会体育係、文化財係が含まれていた、県は、体育・レクリエーション普及の手段として「社会体育指導員」を設けました。二十五年頃であつたと思ひます。

県内各都市から、男一・女一の推せんを受け、社会体育指導員として委嘱、研修を重ねて指導者養成をしたわけです。私も三十年まで五年間、仲間に入れてもらっていました。

毎年、夏・冬、三泊四日程度の研修ですが、夏は釜山・キャンプ、冬はスキーを中心に、民謡・フォークダンス・歌唱・ゲーム指導などの実技と、普及推進の方策を研究協議するものな楽しいプログラムでした。

ラムでしたが、楽しいものでした。研修の指導者は、県社会教育課の飯塚正雄先生(当時町教育長)二階堂吉先生(現白根市教育長)、吉水トシ子先生(現女子短大)でした。みんな引張られる情熱的な指導に感動しながら頑張ったものです。特に、歌・ゲームを指導された吉水先生の巧な指導法が強く印象に残っています。

冬のスキーは、社体指導員の仲間、団体選手でもあった、小千谷の平次さん、湯沢の野野さん等が指導者でした。平場育ちの私には、苦いでしたが、すばらしい指導ぶりは、今も思ひ出して感じ入っています。

当時、こうした研修のほかに講習会や、レクリエーション指導講習会が、数多く開かれていました。意欲的に参加した積重ねが、何とかお役にたてる土台であつたと思つています。

(2) フォークダンス 日本の郷土民謡を分けて、外国

民謡をフォークダンスと呼んでいきました。二十年代初期の頃には、スキニアダンスが、若者に人気があり、各地に競技会が開かれるまでになっていました。しかし、参入したフォークダンス協会が加層と教を急激に増していったのは、サークルダンスでした。男と女が手を組んで踊ることなど、新しい踊りを仕入れることに経験のない人が多かった頃で、苦勞しました。あちこちの講習会

す。関心をもって会場に集まってくる人が多かり、レコードの贈答で自習も多かったり、はじめは、なかなか男女手を組んでくれませんでした。一度踊ってくれば、しめたもので、どんどん輪は広がっていきました。社会体育指導員としての活躍の場は、町村公民館や郡公産主催の講習会・集会でした。私も、を借りて「フォークダンスの集

にリーダーから参加してもらった。中心になって熱心に普及を努力した人は、吉田さんと新田市の周辺町村が盛んで、県大会には黒崎村(当時)が優勝した。興味をもった若者は、お屋敷にまで集って、ゲームを楽しんでいました。中学生もチームをつくり、村対村大会に出るようになりました。

三十一年、村の対村大会で、三チームを引率して、新田の大会に出場しました。結果は、優勝・二・三位と上位を独占して、大いに気をほいたもので、優勝カップは、高さ二メートル、もう一つの月に光が見えるかざりペンとはれよう、力つきて倒れたら友よ、きみから贈られた記念のスカーフで、そっと、ぼくの顔を被うてくれ

詩

四月のある曇り日に

浅間 勝衛

見あげると
桜が散る
散る
散る
ひとの命が散る
花びらのように果しなく散る

この死にむかって限りなく収斂してゆくもの
死が近づいたら死を歌おう
書けなくなったら
書けない苦しみを詩にするだけだ

片日は病んでも
元糸魚川市公民館長
埼玉県越谷市弥十郎
4-10在住)

ルもある大杯でした。復活したサークルに、昔のころを、なつかしんでいます。(元県社会教育主事 新潟市横橋小学校長)

あとがき



道の垣根越しに見る木々の新緑も風をよませながら鮮やかさを見せています。公民館のみならずも新年度に入り何かとせわいせわ毎日をお過しのことを行います。

県公連事務局では、黒柱の本田事務局長が絶勢がもて体調をくずし新潟病院に入院中で、たよらない事務局となつています。

そんな折、先日開催された評議員会では、新潟市の北村館長さんが全面的に事務局を助けてくださいました。また、本紙編集にあたっては、柏崎市の徳間事務局長さんが二面の記事を担当、校正には新潟市の後藤館長補佐の手をわすれませんでした。それぞれみな手の温かなお気持に感謝いたします。

本田事務局長には、この際充分な休養をとって早く元気な顔を見せていただきたいと思つています。(原)